



# 今井小だより

第10号  
令和4年  
1月11日  
青梅市立今井小学校



今井小HP

一年の計は元旦にあり

校長 神尾 健彦

何となく 今年はいい事 あるごとし  
元日の朝 晴れて風無し  
石川 啄木

恵まれない生活にありながらも明日への希望を失わず生きていく、啄木の素直な気持ちが伝わってきます。新規感染者数も増加してきて、新型コロナウイルス感染症の対応で気持ちも塞ぎがちですが、「今年こそは。」と希望をもって生活していきたいですね。

「一年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、皆さんは新しい年を迎え、どのような目標を立てられたでしょうか。このことわざは諸説ありますが、戦国時代の武将、毛利元就が息子に送った手紙の一説にあるといわれています。その手紙にはこう書かれています。

一年の計は春にあり（一年の計画は新しい年に立てるべきである）、一月の計は朔（ついたち）にあり（一月の計画は月初めに立てるべきである）、一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり（一日の計画は一番鶏が鳴く朝に立てるべきである）

つまり、物事は、初めが最も大切で、物事を始めるには、最初に計画をしっかり立てておくべきだということになります。また、こんなエピソードもあります。元日の朝、祝いの膳を食べるように、家臣が元就に促したところ、元就は黙って席を立ち去りました。その後、家臣を呼び出し、「なぜ元旦を祝うか？」と尋ねます。答えることができない家臣に向かって元就は、こう答えたといひます。「世の愚か者どもは、恵方を拝んで、とそを飲み、長寿・子孫繁栄を祝って浮かれているが、元旦はそんな暢気なものではなく、年の初めに一年の事をじっくり考える。それが本当の祝いというものである。」世は戦国、少しでも油断すれば危険につながります。リーダーとしての心構えを問われている気がして、身の引き締まる思いがします。

ところで、今年の干支は、壬寅です。「寅」の字義としては、弓矢を両手で引き絞る形を表した象形文字であり、矢が放たれる準備段階を示していることから「動き始める」、「胎動」の意味が派生し、春が来て草木が伸び始める状態を表すと言われていています。新しい年が、厳しい冬から春の陽気へ転じてゆく年となることを願っています。虎は日本では生息していないものの、干支に登場するため、人々に親しまれているようです。「虎の子」という言葉がありますが、虎は自分の子を大事に守り、非常にかわいがって育てることから、大切に手放せない物のたとえとして「虎の子」と言うようになりました。虎が我が子を大切に育てる愛情の深さにあやかって、子供たちが健やかに育つことも、新しい年に当たって願っています。

新しい年がスタートしました。令和4年も子供が楽しく学び、元気に学校生活を送れるよう、教職員一同励んでまいります。今後とも今井小学校の教育活動へのご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。